



TITLE:

二月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

二月の天象. 天界 1929, 9(95): 160-164

ISSUE DATE:

1929-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161374>

RIGHT:

二 月 の 天 象

太 陽

月始めは寶瓶宮に在りて20日より雙魚宮に入る。

日	赤經	赤緯	星座	視直徑	北極の傾	赤道の位置
0	20時52分	南17度35分	山羊座	32分32秒	西へ12度	北へ6度
10	21 33	14 34	ク	32 28	16	7
20	22 12	11 10	水瓶座	32 25	19	7

太陽の自轉軸は今後益々西へ傾いて、月末には北極は20度近く西へ傾むく。更に赤道は、太陽の視中心より北側7度の所を通つてゐるので、太陽の南極が一番よく見える頃である。従つて黒點が太陽の自轉に依り太陽面上を動く様に見える有様は、決して直線にならず、最も灣曲した曲線を畫いて移動する様に見える。

月

月の相	時刻	星座	視直徑
下弦	1日午後11時10分24秒	天秤星座	29分55秒
新月	10 午前 2 55 6	山羊	30 23
上弦	17 午前 9 22 30	牡牛	32 14
満月	24 午前 3 58 36	乙女	31 57
遠地點通過	4 午後 5 30	蝸	29 33
近地點通過	20 午後 3 30	双子	32 35

月は 5 日午後 7 時頃土星の南を通り過ぎて、9 日の正午過ぎに水星のすつみ南を横ぎり、13日午前10時に天王星の南を過ぎ、續いて同日午後 5 時には金星に出合ひて矢張りその南を通り過ぎる。更に15日には午後 4 時40分木星の直ぐ南を通り、次いで19日午前 5 時過ぎには火星と非常に接近するので面白いのであるが相憎く、此の時は日本からは見えない。最後に23日午後三時に海王星の北側を過ぎて、今月の遊星歴訪を終る。

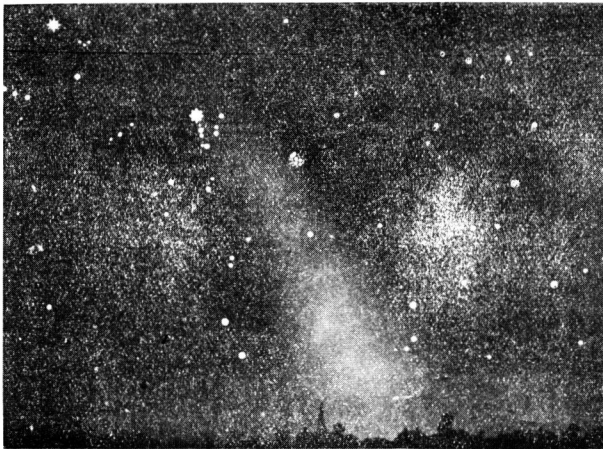
火 星

	赤經	赤緯	視直徑	光度	距離	光達時間
6日	5時23分	北26度20分	11.1秒	負0.2等	0.842	6分59秒
16日	5 30	26 15	10.1	正0.1	0.930	7 44
26日	5 41	26 11	9.2	正0.3	1.002	8 30

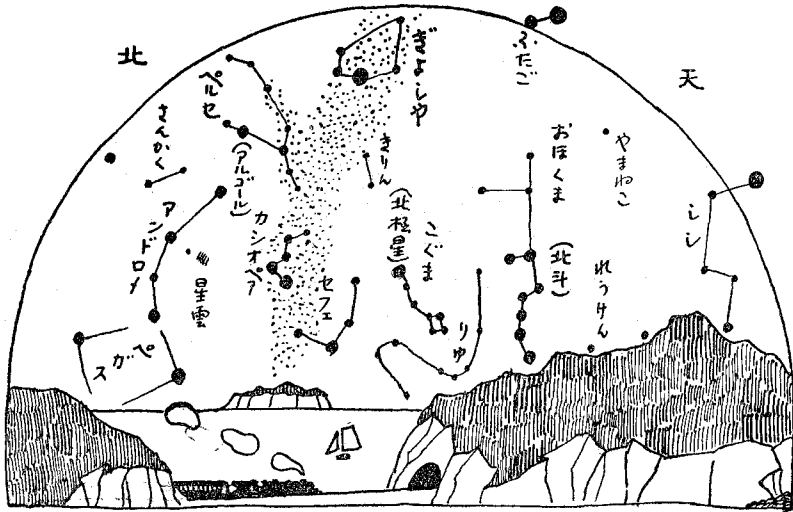
黄 道 光

黄道光の観望には今月が最も都合がよい。既に先月には其の光度は銀河に比適し、頂點は木星近くまで延びてゐた。観望上の注意は本年一月號の通りであるが、月光があつては駄目であるから、今月も10日頃までがよい。只だ、金星と木星とは輝きが強いので、可成り邪魔になるが、手か何かで其の光をさへぎる様に工夫したらよいであらう。又た單に見る丈でなく、其の形狀を星圖上に記入して、毎日の形、光度、色等の變化を見る面白。殊に、此の観測には望遠鏡等が不用であるから、素人でも少し馴れれば、學術上價值ある観測を爲す事が出来る。観測を記録する要領は、(1) 観測せる年月日時、(2) 観測地、(3) 観測者、(4) 黄道光の外形を星圖に記入、(5) 光の強さ(或は明らかさか或は弱いさか)、(6) 其の時の天氣狀態(雲の有無等)、(7) 注意事項、等を記録すれば一つの立派な観測報告となる。會員諸氏の内、観測報告を本會へ送つて下さる熱心家には、観測用星圖を無代で進呈する筈。

此の黄道光と類似の現象なる對日照も、今後4月頃までは見える事と思はれるが、其の光度が非常に弱いので、空氣のよく澄んだ、燈火の眼に入らない所でなければ駄目であらう。此れの観測も黄道光と全く同様の要領でやれるから、観測をおすすめする。此の對日照の形は1月には小さく長く2月には非常に大きく圓く、3月には大きく圓く、4月には大きく稍長いと云つてゐる人もある。現はれる位置は太陽の正反對の附近である。



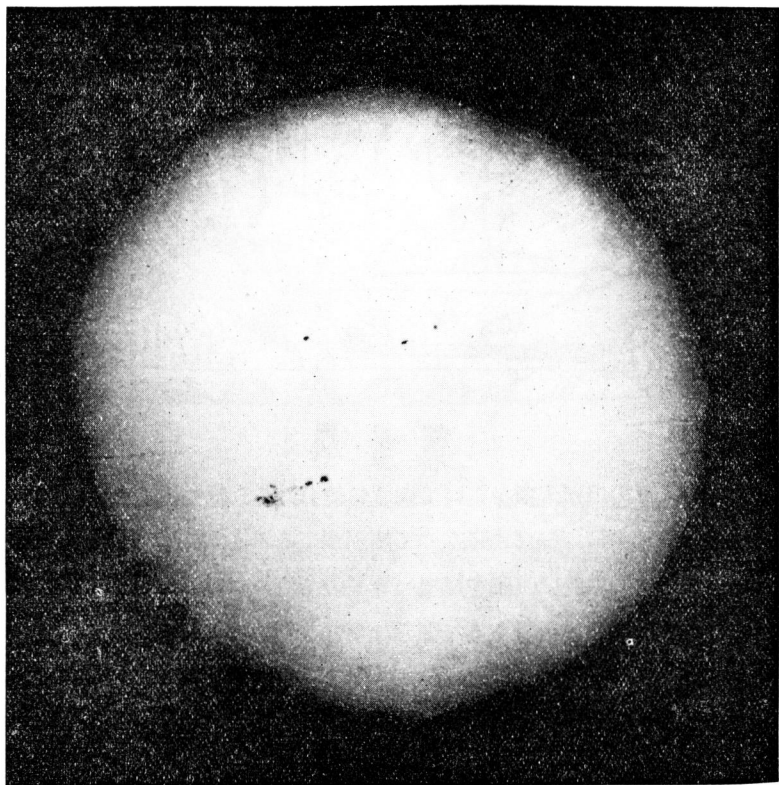
西 天 の 黄 道 光



恒星界

丁度、天の川が天頂を貫いて南北に流れ、天の最も美しい部分が、南半分の天空に、一ぱいになつて擴がつてゐる。寒風に吹きさらされた漆黒の空に、鋭い、刺す様な一等星のきらめきは、如何にも嚴冬の夜にふさはしい景色である。即ち、ポルツクス、アルデバラン、ベテルギウス、ベラトリックス、リゲル、プロシオン、シリウス等は南の空にがんばつてゐる、東の空には既にレグルスが現はれ、緯度の低い地方では、更にカノプスも見ることが出来る。此等一等星の間には、數多の星雲や星團が散在してゐるのみならず、遊星界の大立物たる木星や、昨年末の空を賑はした火星が點在する。更に西空には魔の如き黃道光の怪異な光の中に、「美の神」金星が安らかに坐してゐる。

北の方では北斗七星が垂直になつて、北極星を中心にして、カシオペアと相對してゐる。ベガスは地平線に半ば没して、アンドロメダがこれに續き、東からは「れうけん」「しし」等が登つて来る。天頂には「ぎょしゃ」と「ふたご」が位置を占め、ペルセウスのアルゴールもまだ暫らくは觀望出来る。



1928年7月7日9時59分撮影 上の黒點群が肉眼に見えたもの、プリントの拙づかつた爲、非常に見にくくなつたのは残念だつた。